



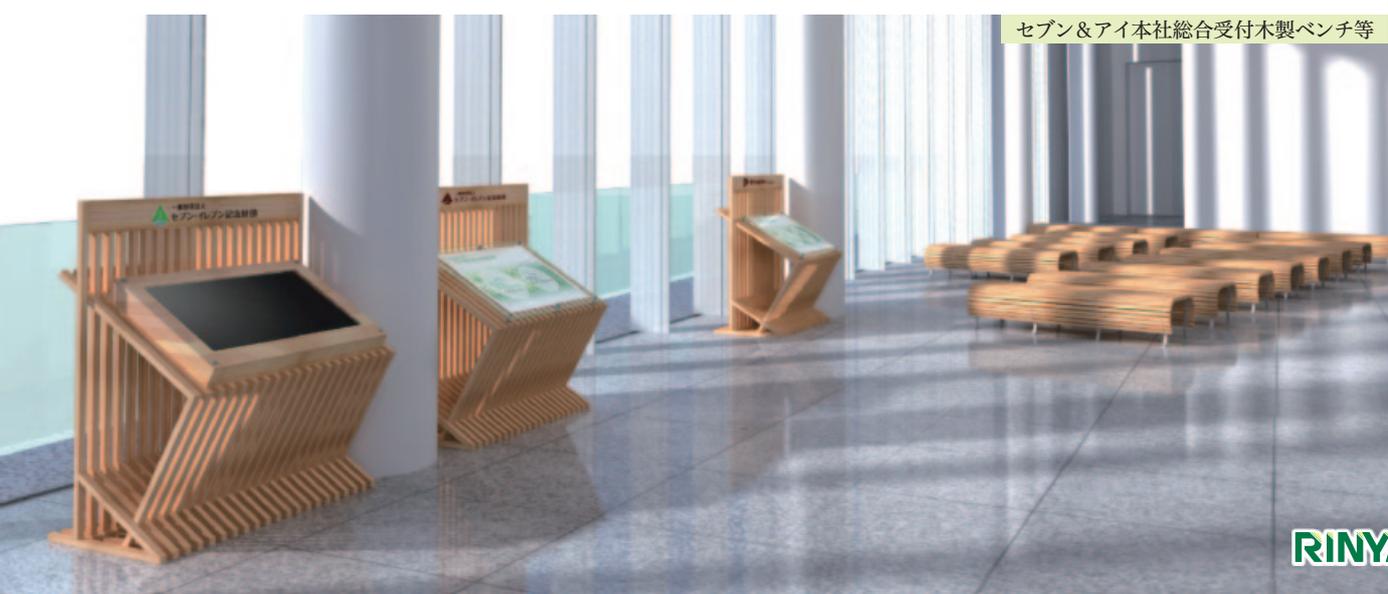
「セブンの森」におけるグループ社員などのボランティア活動

「セブンの森」での森林整備活動や、そこから得られる間伐材を利用した商品の企画・開発を行い、小売業としては初めて「間伐材マーク」の認定を受け、全国の店舗で販売を行うなど、森林づくりから木づかいまでをも推進する、セブン&アイ・ホールディングスの取組をご紹介します。

「セブンの森」での森林づくりの取組

セブン&アイ・ホールディングスは、一般社団法人セブン・イレブン記念財団と連携し、行政や森林組合、NPO法人などと協定を結び、北海道から宮崎県の全国15カ所、300ha余りの「セブンの森」で、森林整備活動に取り組んでいます。昨年は、2,000人近い参加者により、15,000本の苗木の植栽や、下刈りや間伐などの保育作業などを行っています。

なお、「セブンの森」での間伐によって得られた木材は、セブン・イレブンなどの店頭の募金箱、椅子などに利用されています。本年3月には、本社の総合受付フロアに、「長野セブンの森」からの間伐材を利用したベンチやパネル類の架台が設置されています。



セブン&アイ本社総合受付木製ベンチ等



お買い物でエコ参加
 この商品の容器はセブン&アイグループとセブン・イレブン記念財団が森林保全活動を行う「セブンの森」から伐採した間伐材を含む30%以上の国産材を使用しています。
 認定番号K1405310



いろんな紙製飲料容器にも間伐材が使われています。

この紙コップの外側スリーブ部は間伐材を含む紙を使用しています。中身は熱いのでやけどにご注意ください。扱い方によっては漏れる場合があります。落したり、むりな力を加えたりしないでください。

紙
 この紙コップの外側スリーブ部は間伐材を含む紙を使用しています。認定番号K1405310



セブンカフェのホットカップにも間伐材が使われています。

「セブンの森」から得られた間伐材を商品の紙製容器に利用！

「セブンの森」からの間伐材は、紙製容器という形で商品として販売されるようになりました。我が国のパルプ・チップ用の木材の自給率は17%（H25）ですが、プライベートブランド「セブンプレミアム」の商品のラインナップの一部の紙製容器に、「セブンの森」からの間伐材を一部含む国産材を30%以上使用、これを明示した商品の販売が開始されています。

昨年8月には、「セブンの森」からの間伐材を含む紙製飲料容器「カートカン」の野菜・果物飲料の販売が開始されました。また、昨年10月に販売が開始されたヨーグルト飲料と春雨スープの紙製容器にも、「セブンの森」の間伐材を一部活用した用紙を使用しており、間伐材マークを取得しています。これらは、セブン・イレブン、イトーヨーカドー、そごう・西武などのセブン&アイグループ各店舗で販売されています。

また、全国のセブン・イレブン店舗を中心に年間約7億杯を売り上げているドリップコーヒー「セブンカフェ」のホットカップの大半が、間伐材を使用する仕様に切り替わっており、「間伐材マーク」がカップ背面に印刷されています。

間伐材が使用されていることや、間伐材マークに気づいてない消費者も現時点では少なくなく、認知促進が課題のようです。

これから商品を手取る機会がありましたら、背面の小さな間伐材マークを見つけてみてくださいね。間伐材製品を使用することが、間伐などの森林整備を推進することにつながります。

間伐材を紙製容器に使った商品

